

福岡教育大学「学術情報センター」の発足

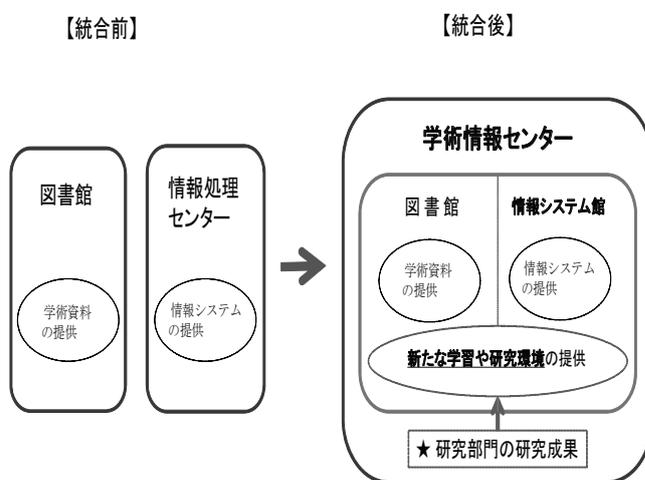
副学長(学術情報担当)・学術情報センター長 大坪 靖直
副理事(評価担当)・学術情報副センター長 清水 紀宏

平成 24 年 7 月 1 日、福岡教育大学学術情報センターが発足した。これは、附属図書館と情報処理センターの統合によるものである。

1. 「附属図書館」と「情報処理センター」の組織統合

福岡教育大学は九州唯一の教員養成系大学として、長年にわたって、教員の養成、教育者の育成を行っており、教育を通して生涯学習社会への対応に必要な能力を持った人財の育成を支援してきた。

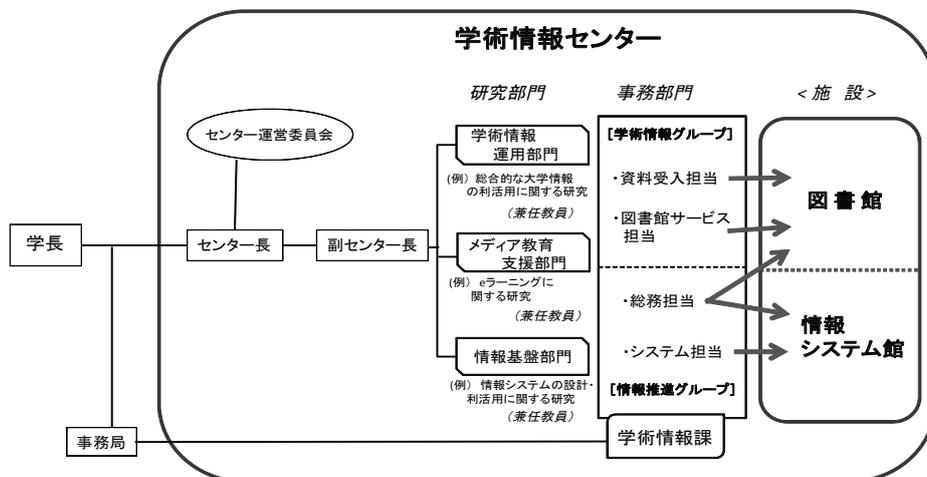
附属図書館と情報処理センター、また、これらを支える事務組織の学術情報課と情報推進課は、本学の情報関連組織として、情報基盤や大学(事務)情報の運用管理にあたり、本学の教育研究及び社会貢献を支援してきた。この四組織を統合することによって情報の収集・管理・運用が一元化され、情報システム・ネットワーク関係業務と、学術資料の提供の業務について、マクロな視点から見直すことが可能となり、本学での情報活用促進が一層高まると期待できる。このことは本学の教育研究や社会貢献の支援向上につながり、生涯学習社会への一層の貢献が可能となる。



2. 「学術情報センター」の組織

学術情報センターには、「学術情報運用部門」「メディア教育支援部門」「情報基盤部門」等の研究部門を置くことができ、プロジェクト型の研究を推進していくことになる。このことは、センターの情報収集・管理・提供に係る業務の高度化を図ることにつながる。これら研究部門と事務部門(学術情報課)の連携により、学生や教職員による情報活用が促進される。

福岡教育大学 学術情報センター組織図



3. 展望と課題

統合前は、情報関連組織がそれぞれの役割を遂行するべく機能してきた。統合後は、組織が一体となって機能し、情報基盤を確立するとともに、他の学内組織と連携することによって、学習・教育・研究支援の強化ならびに情報化の推進にあたっていく。このことで以下のことが期待できる。

① 教育研究の高度化

情報基盤を活用した、新たな授業や研究を展開できるようになる。

② 教員養成・教育者育成支援の高度化

課題を発見し解決する能力や、生涯にわたって知識を活用する能力をもった教員の養成を支援し、また教育者の育成を支援することができる。

③ 社会貢献の進展

上記①②による本学教員の学術文化発展への寄与、本学卒業生の学校(園)教育への貢献、及び地域連携の増進による社会貢献が進展していく。

④ 情報関連の人財育成の機会創出

教職員へ情報関連のスキル獲得機会を提供することによって、上記の効果を強化する。

⑤ 大学情報の活用促進

大学情報を迅速に収集・管理・運用・発信できるようになり、本学の運営及び社会貢献に寄与することができる。

⑥ 学習機会の多様化

ラーニングコモンズのような、情報設備と図書館資料を活用した学習の場が提供されることにより、学習機会が多様化する。

⑦ 図書館機能の向上

情報ネットワークを介した情報収集や情報活用を行う環境がさらに整備され、図書館の教育研究支援機能が活性化する。

⑧ 大学ブランド「福教大ブランド」の確立

大学が優れた教員、教育者を養成(育成)することを通じて、大学の価値を高め、ひいては地域社会での存在価値を高めていく。

組織統合の意義を具現化するためには、解決すべき課題もある。他組織との連携のあり方、施設(建物)の一体化、ニーズの把握、業務内容の精査などが課題となる。これらに対応し、期待に応えるべく、一歩ずつ前進していくこととしている。